

「第157回企業動向調査」

調査要領

1. 調査目的 岐阜県、愛知県の景気動向の把握
2. 調査対象 岐阜県、愛知県の取引先企業 500 社
3. 調査方法 郵送によるアンケート方式
4. 調査時期 2011 年 12 月 1 日～15 日
5. 調査期間 2011 年 10 月～12 月期 実績（見込み）
2012 年 1 月～3 月期 予想
6. 調査事項 (1)売上・受注・操業率・価格・在庫 (2)企業金融 (3)収益
(4)業況 (5)設備投資 (6)経営上の問題点 (7)雇用
7. 回答状況 有効回答数 255 社、有効回答率 51.0%
8. 本調査の経緯 第 1 回調査 1966 年 1 月（半期ベース）、
1980 年 6 月より四半期ベース

要旨

**2011 年 10～12 月期の企業マインドは前期比でわずかに改善した。
来期（2012 年 1 月～3 月期）は、悪化が予想される。**

景況感をあらわす「総合判断指数」B.S.I.は 10.6（前期比 1.2^{ポイント}増）とわずかに改善した。業種別にみると「製造業」（4.7、前期比 2.7^{ポイント}減）は悪化、「非製造業」（19.1、同 7.2^{ポイント}増）は大幅に改善した。

来期（2012 年 1～3 月期）は、「製造業」（12.0、前期比 7.3^{ポイント}減）、「非製造業」（23.8、同 4.7^{ポイント}減）ともに悪化し、全体でも 16.9（前期比 6.3^{ポイント}減）と、悪化に転じることが予想される。

< 2011 年 10～12 月期実績 >

各 B.S.I.を見ると、「売上げ」B.S.I.は上昇、「受注」B.S.I.、「操業率」B.S.I.は低下した。価格については、「仕入価格」B.S.I.、「販売価格」B.S.I.は、ともに低下し、「売上高純利益率」B.S.I.は悪化した。

「当面する経営上の最大の問題点」として、「売上げ・受注競争の激化」と回答した比率が最も高く、「売上げの停滞・減少」、「仕入商品・原材料高」がこれに続いた。

「正社員の人員」B.S.I.、「パート・臨時雇用者の人員」B.S.I.はともに上昇し、全体での雇用人員の過剰感は弱まった。

< 2012 年 1～3 月期予想 >

「売上げ」B.S.I.、「操業率」B.S.I.、「受注」B.S.I.は、いずれも低下が予想されている。

価格についても、「仕入価格」B.S.I.、「販売価格」B.S.I.が低下し、「売上高純利益率」B.S.I.は悪化が見込まれる。

< コメント >

「総合判断指数」は、前々期の 2011 年 4 月～6 月期（20.2）に底をつけた後、前期（2011 年 7～9 月）は 11.8 と改善に転じ、今期（2011 年 10 月～12 月）も 10.6 と、引き続き緩やかに回復した。しかし、円高の定着や欧州の信用不安等、景気の先行きに関する不透明感を反映し、来期（2012 年 1～3 月）は 16.9 と再び悪化が見込まれている。

業種別にみると、製造業の B.S.I.は、プラス水準かつ前期比改善を示すグループと、マイナス水準かつ前期比悪化を示すグループに、二極化する傾向が見られた。一方、非製造業の B.S.I.はマイナス水準かつ前期比横ばいの傾向にある。

「設備投資」は増加傾向にある。設備投資の目的も、「既存設備の補修・更新」が減少する一方で、「生産・販売能力の増大」が引き続き増加傾向にあり、前向きな投資が増えている。

* B.S.I.(Business Survey Index)

各項目につき、前年同期と比べて好転(増加・上昇・容易・過大)と回答した割合から、悪化(減少・低下・困難・不足)と回答した割合を差し引いて求めた指標

* 「総合判断指数」

自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

調査結果の概要

